

**田尻宗昭** **社会運動家。海上保安庁職員として、四日市公害摘発、美濃部都知事に招かれ、以降、公害問題に生涯をかけた。**

たじりむねあき

共産党事件・1928 = 福岡市に生まれる。

**満州事変**・1931 = 3歳 :

**日中戦争始**・1937 = 9歳 :

**日米開戦**・1941 = 13歳 :

年金+総武装 1944 = 16歳 : 宮崎県立宮崎中学校を卒業。

**敗戦**・1945 = 17歳 :

新憲法公布・1946 = **18歳** :

極東裁判決・1948 = 20歳 : 高等商船学校航海科を卒業し、門司海員養成教官を経て**海上保安庁**に入り、

巡視船船長などで季ライン警戒や北洋海難救助などに従事。

**独立回復**・1951 = 23歳 :

**55年体制始**・1955 = **27歳** :

**安保闘争**・1960 = 32歳 :

**東京リトル** 1964 = **36歳** :

**霞ヶ関ビル**・1968 = 40歳 : \*四日市海上本部警備救難課長になると、石原産業・日本アエロジルの工場排水垂れ流しを摘発し、公害事件で初めて刑事責任を追求、行政と産業界の癒着にメスを入れる。

**石油ショック**1973 = **45歳** : \*美濃部東京都知事に請われて都公害局主幹に転進。同局規制副部長として日本化学工業のクロム鉍滓投棄を明るみに出し、住民と労災被害者の救済に尽力する一方、全国各地の公害・大規模開発反対運動と精力的に交流し支援。

成田衝突・1978 = 50歳 : **国のNO2環境基準緩和を「環境行政の後退」と激しく批判し、NO2訴訟の先頭に立つ。**

革新大敗北・1979 = 51歳 : **東京都公害研究所次長に就任、廃乾電池焼却による水銀汚染やダイオキシンなど有害化学物質による環境汚染に警鐘を鳴らす。**

**中曽根内閣**・1982 = **54歳** :

**ジャンボ機墜落**1985 = 57歳 : **論文「タンカー事故防止対策と港灣計画」で、東京工業大学から工学博士号を取得。**

**パブル始**・1986 = 58歳 : \*職員研究所教授を最後に東京都を去り、社団法人神奈川労災職業病センター所長に就任。米空母ミッドウェイのアスベスト廃棄物投棄を摘発・振動病被災者打ち切り反対・労災補償制度改悪反対闘争の先頭に立つ。**地方自治総合研究所委嘱研究員。**

昭和天皇没・1989 = 61歳 : **研究員を辞任し、神奈川大学特任教授に就任。**

**トイウ統一**・1990 = 62歳 : \*大腸癌で倒れて入院、手術経過良好で、念願の全国労働安全衛生センター連絡会議を設立を果たし初代議長に就任するも、癌はすでに転移しており、再入院後、転移性肝臓癌のため没した。